

・懇談会等【共益事業】

(1) 会員懇談会

会員懇談会は、全会員の交流を強化、懇親を図る場である。大臣や閣僚、国内外の有識者等を来賓として招き、時宜にあった話題で講演会を開催し、意見交換を行っている。

6月に富士山が、三保松原を含め世界遺産に登録が決定した時宜を捉え、8月26日に近藤誠一 前文化庁 長官を迎え、「世界文化遺産、富士山と三保松原、登録実現までの道のり」をテーマに開催した。当日は、当初、難しいと言われた三保松原を逆転で登録に結び付けることに成功させたロビー活動の概要、を通じて語り続け、自身の体験に基づいた日本人の国民性や諸外国の対日観等について講演いただいた。

毎年恒例となっている同友クラブと合同の「新年会員懇談会」は、1月29日に、下村博文 文部科学大臣、教育再生担当大臣、東京オリンピック・パラリンピック担当大臣を迎え、「教育再生と文化芸術立国に向けた取り組み」をテーマに開催した。安倍政権の発足後、21世紀の日本にふさわしい教育体制を構築していくための「教育再生実行会議」が2013年1月に設置され、9月の2020年オリンピック・パラリンピックの東京開催の決定に伴い、文化芸術立国に向けたプランの策定が進められたことを受けて、世界で活躍できる人材を育成していくための取り組みや、日本文化の発信力強化の方策等について講演いただいた。講演の後には懇親会を開催し、下村大臣を囲んで参加者と交流を深めた。

(2) 会員セミナー

全会員を対象とした情報提供の場である会員セミナー（松島正之委員長・岩田喜美枝委員長）では、テーマ及び講師を含めた運営方針について、7月と1月に運営委員会を開催して協議した。その結果、多様な会員ニーズに応えることができるよう、経済、政治、国際問題、教育、医学、科学等、幅広いジャンルから時宜にかなった先端情報・テーマを選定し、第一線で活躍している講師を招聘した。

特に本年度は、安倍首相が掲げるアベノミクスの「三本の矢」に絡め、日本経済の展望、アベノミクスの評価や課題といった観点から、成長戦略に関するテーマを中心として取り組んだ。本年度の前半には、イスラムの世界観、シェールガス革命、アフリカ開発、危機管理、待機児童問題、若者の人材育成、「はやぶさ」の往復宇宙飛行等の講演に加え、阿川佐和子氏による講演も実施した。年度後半には、民法改正、重粒子線治療の将来、大学教育の改革、農業の成長産業化、新型インフルエンザリスク、

地球温暖化リスク、最晩年を生きるヒント等について、専門家の講師を招聘し講演いただいた。

本会合終了後には原則的に、講演録である「会員セミナー通報」を会員専用 WEB サイトで配信している。なお、2005 年度より実施している同友クラブメンバーへの案内も継続し、広く情報提供に努めた。

(3) 産業懇談会

産業懇談会（高橋衛代表世話人）は、会員の相互交流、情報交換を目的とし、14 グループがそれぞれの世話人および運営委員を中心に、自主的な活動を行っている。（メンバー総数 768 名：3 月 25 日現在）

定例会はグループごとに昼食会形式で開催し、メンバーからの話題提供や、外部講師による講演などを行っている。テーマは政治、経済、文化等多岐に亘り、施設見学、グループ合同の懇談会の開催等、活発な活動を展開している。また、毎年恒例の「14 グループ合同暑気払い」を 7 月に開催し、グループの枠を越えたメンバー相互の交流を深めた。

一昨年度より世話人および運営委員に任期（1 期 2 年、最長で 5 期 10 年まで再任可能）が設定されたことを受け、各グループでは、適宜運営委員会を開催し、世話人・運営委員体制について討議・決定した。各グループの活動状況は以下の通りである。

〔第 1 火曜グループ〕

例会を 10 回、運営委員会を 1 回開催した。運営委員会では、一年間の活動を踏まえた上で、次年度以降の講演テーマや話題提供候補者等について討議・決定した。例会では、3 人のメンバーからご自身の経験や所属企業・業界の現状や取り組みについて、また、外部講師からは、我々現代人が学ぶべき先住民族からの叢智、会社更生や企業整理、文芸誌編集者の経験からのエピソード、年金問題、北朝鮮情勢、世界経済と日本の課題等をテーマに話題提供・講演をいただいた。また、他グループとの交流を深めるため、「第 1 水曜グループ」「第 1 木曜グループ」との合同懇談会を開催した。

〔第 1 水曜グループ〕

例会を 9 回（見学会 1 回を含む）運営委員会を 2 回開催した。運営委員会では、一年間の活動、次年度世話人・運営委員体制等について討議・決定した。例会では、メンバーから所属する業界の現状や事業の体験談などについて、また外部講師には、日本のエレクトロニクス産業の挑戦、アジャイル開発、コンピュータによる予測、グローバル化時代の標準化戦略などをテーマに話題提供・講演をいただいた。また、新

国立劇場の見学会を実施した。さらにグループメンバーの懇談会と他グループとの交流を深めるため、「第1火曜グループ」「第1木曜グループ」と合同で懇談会を開催した。

〔第1木曜グループ〕

例会を9回、運営委員会を1回開催した。運営委員会では、一年間の活動、次年度運営委員体制等について討議・決定した。例会では、メンバー自身の事業の紹介や業界の動向・課題などについて、また外部講師には、わが国のエネルギー政策、日本人の価値観・消費者動向、政治・経済情勢、ミャンマーにおける資本市場、企業経営などをテーマに話題提供・講演をいただいた。また、他グループとの交流を深めるため、「第1火曜グループ」「第1水曜グループ」との合同懇談会を開催した。

〔第2火曜グループ〕

例会を10回、運営委員会を1回開催した。運営委員会では、一年間の活動、次年度世話人・運営委員体制等について討議・決定した。例会では、メンバー自身の事業や業界の動向について、また外部講師からは、日本の外交戦略、オリンピック、農業、労働市場改革、経済見通しなどをテーマに話題提供・講演をいただいた。さらに、メンバー間の交流を目的とした懇談会を開催した。

〔第2水曜グループ〕

例会を9回（見学会2回を含む）、運営委員会を1回開催した。運営委員会では、一年間の活動、次年度世話人・運営委員体制等について討議・決定した。例会では、メンバー自身の事業や業界に関して、知能化技術、ソーシャルゲーム、会計・監査、ベンチャー、ヘルスサイエンス、法曹事情、米国の人材育成などをテーマに話題提供をいただいた。見学会では、最高裁判所と docomo Future Station を訪れ、知見を深めた。さらに、他グループとの交流を深めるため、「第2金曜グループ」「第3水曜グループ」との新年合同懇談会を開催した。

〔第2木曜グループ〕

例会を11回、運営委員会を1回開催した。運営委員会では次年度に向けた運営方針及び講演テーマなどについて討議・決定した。例会では、新入メンバーによる業界事情の報告（アルミダイキャスト、ネットラーニング、損害保険）があった。また外部講師には、環境問題、エネルギー問題、防災対策、花街の経済、経済見通し、中国問題、若者世代の消費行動など、幅広い分野でのご講演を頂き知見を深めた。このほか、新装となった東京ステーションホテルの見学会を催し、その歴史的価値や新しい設備について学んだ。

〔第2金曜グループ〕

例会を10回、運営委員会を1回開催した。運営委員会では、一年間の活動等について討議・決定した。例会では、メンバー自身の事業の紹介や取り組みなどについて、また外部講師には、再生医療の実用化や産業化、生きるとはどういうことか、ビッグデータがもたらす変化、水ビジネスや水と健康の関係、建築におけるリージョナリズムなどをテーマに話題提供・講演をいただいた。さらに他グループとの交流を深めるため「第2水曜グループ」および「第3水曜グループ」との3グループ合同で新年懇談会を開催した。

〔第3火曜グループ〕

例会を10回、運営委員会を1回開催した。運営委員会では、次年度の活動等について討議・決定した。例会ではメンバー自身の所属する企業・業界の状況などについて、また外部講師には、言語学・税制・宗教・医療・国際政治などをテーマに話題提供・講演をいただいた。さらにメンバー間の交流を目的とした懇談会を開催した。

〔第3水曜グループ〕

例会を10回、運営委員会2回を開催した。運営委員会では、一年間の活動、次年度活動等について討議・決定した。例会では、メンバーから、自身の所属する企業・業界の状況や動向、日本文化・歴史などについて、また外部講師には、外交問題、ソーシャルマナー、成長戦略などをテーマに話題提供・講演をいただいた。さらに東京国立博物館において見学会を開催した。また、他グループとの交流を図るため、「第2水曜グループ」および「第2金曜グループ」との新年合同懇談会を開催した。

〔第3木曜グループ〕

例会を9回、運営委員会を2回開催した。運営委員会では、一年間の活動や次年度世話人・運営委員体制等について討議・決定した。例会では、メンバーから国の財政政策、石油業界の現状、日本経済とドイツの構造改革、私鉄業界の取り組み、株式上場後の資本政策について、外部講師からは中国情勢、オリンピック招致活動報告、次年度経済の展望、米中関係の行方など、多岐にわたる内容について話題提供・講演をいただいた。また、日本のトップアスリートたちの活動を支えている、味の素ナショナルトレーニングセンターの見学会を実施した。

〔第4火曜グループ〕

例会を10回、運営委員会を1回開催した。運営委員会では、一年間の活動等について討議・決定した。例会では、メンバー自身の所属企業・業界の現状や取り組みについて、また外部講師には、スパコン「京」の開発と利用、アベノミクスと日本経済、

コソボ共和国の歴史についてなど、幅広いテーマについて話題提供・講演をいただいた。また、グループ内の交流を深めるため懇談会を開催した。

〔第4水曜グループ〕

例会を9回、運営委員会を1回開催した。運営委員会では、一年間の活動の総括を行うとともに次年度外部講師候補等について討議・決定した。例会では、外部講師を中心に、2020年東京オリンピック・パラリンピック招致活動、サービス・グローバルゼーション、日本の立地競争力強化のための統合型リゾートの活用、ビッグデータの利活用ならびに人材育成、隕石落下に対する監視体制、3Dプリンターの展望等、幅広いテーマについてご講演をいただいた。さらにメンバー間の交流を深めることを目的とした見学会(東京ステーションホテル)ならびに懇談会を1回開催した。

〔第4木曜グループ〕

例会を10回、運営委員会を1回開催した。運営委員会では、一年間の活動等について討議・決定した。例会では、新たにグループに参加されたメンバー自身の事業の動向や業界の動向などについて、また外部講師からは、米国のシェールガス開発、スイスからの視点で考える日本のあり方、騎馬遊牧民とシルクロード、中国経済の現状と課題、スピルリナの可能性、中国化する日本、老人割引と学生割引をテーマに話題提供・講演をいただいた。また、メンバー間の交流を目的に新年懇談会を開催した。

〔第4金曜グループ〕

例会を9回、運営委員会を1回開催した。運営委員会では、一年間の活動、次年度の運営委員体制等について討議・決定した。例会では、メンバー自身の業界動向を中心に、電子チラシ事業、株式市場とJPX日経インデックス400、国際都市東京の競争力強化、医薬品産業と健康について、また外部講師には、経済パートナーとしてのアフリカ、日本の農業問題、東京駅丸の内駅舎の活用、パチカンの聖と俗、グローバル経済の現状と見通しなどをテーマに話題提供・講演をいただいた。さらに、メンバー間の交流を目的とした忘年懇談会を開催した。

(4) 経済懇談会

経済懇談会(浦田晴之世話人、飯野健司世話人)では、1997年の発足以来、企業の第一線の経営者(副社長・専務・常務・執行役クラス)によりメンバーを構成し、経済・経営に関する具体的かつ身近な話題について自主運営による意見交換を行っている。メンバーは多様な業種から構成されており、本年度は21名中4名の新任委員を迎えた。

本年度の活動は、「日本再興を実現するイノベティブ経営」をメインテーマに、メンバー各社における取り組み事例の紹介、外部有識者からの問題提起、グローバル競争の強化に向けたダイバシティマネジメントに焦点を絞ったフリーディスカッションなど本音での議論を行うとともに施設見学会を実施した。

具体的な活動としては、2013年9月から2014年3月までに定例会合（原則として毎月2回：朝会形式）を12回、施設見学会を1回開催した。

定例会合では、シスコシステムズ、電通、帝人、三菱商事、伊藤忠商事、リコー、マッキンゼー各社の取り組み事例に基づく話題提供および意見交換を行った。

外部有識者のヒアリングでは、国家戦略特区ワーキンググループ座長の八田達夫政策分析センター所長より、成長戦略としての規制緩和・国家戦略特区構想について、また、グローバル経営視点から天羽稔デュポン取締役会長より、グローバル経営におけるリーダーシップと人材育成について、意見交換を行った。

施設見学会では、12月にKAGRA(神岡)トンネル、スーパーカミオカンデを訪問した。KAGRA(神岡)トンネルでは、東京大学宇宙線大型低温重力波望遠鏡施設の掘削工事現場、スーパーカミオカンデでは、宇宙素粒子ニュートリノ検出のための装置・施設を視察した。

3月には長谷川閑史代表幹事から、武田薬品工業のグローバル化への挑戦や日本企業が取るべき方向性に関する講演と意見交換を行った。

最終回では、メンバーの山梨広一 マッキンゼー&カンパニーインク・ジャパン ディレクターが本年度の活動の総括を行い、意見交換を行った。

(5) 創発の会

創発の会(立石文雄座長)は、本会入会2年以内の会員をメンバーとし、委員会活動への本格的参画のためのファースト・ステップとなる場を提供している。具体的には、メンバーと本会幹部会員との忌憚のない意見交換を通じて、本会の理念、先達経営者の気概を伝承するとともに、メンバーからの率直な意見による幹部会員への触発を図るなど、本会活動の活性化を目的としている。

会合は原則として毎月1回夕刻より、講演会と懇談会(ドリンクパーティ)の2部構成で開催している。

今年度は7月に正副座長会議を開催。経済同友会の基本方針に基づき、創発の会が果たすべき役割について認識の共有を図った上で、今年度の活動と運営内容について討議した。その結果、今年度は「志」(企業経営・経済同友会活動)、「経済成長」、「震災復興」をテーマに企画運営することを決定した。

前期(第1回~4回会合)は長谷川閑史代表幹事より、「日本の現状を見て『行動する同友会』は何をすべきか」、前原金一副代表幹事・専務理事より、成長と復興へ

の革新的挑戦をテーマとした「第 28 回夏季セミナー報告」および自身が人生の座標軸としている「重職心得箇条」、岡本園衛副代表幹事 / 財政・税制改革委員長より、「財政・税制改革委員会の活動」、富山和彦副代表幹事 / サービス産業生産性向上委員長より「サービス産業生産性向上委員会の活動」をテーマとした講演の後、グループ・ディスカッションを行った。

また、後期（第 5 回、第 7 回～ 8 回）は、藤森義明副代表幹事より「LIXIL のグローバル化に向けた取り組み」、伊東信一郎副代表幹事より「ANA の経営戦略～2020 東京五輪を迎えるにあたって～」、北山禎介副代表幹事 / 教育改革委員長より「教育改革委員会の活動」をテーマとした講演の後、意見交換を行った。

第 6 回会合では、2014 年 1 月に「創発の会」が 15 周年を迎えることを記念し、元代表幹事の小林陽太郎終身幹事 / 国際大学理事長ならびに北城恪太郎終身幹事 / 日本アイ・ビー・エム相談役による記念講演の後、歴代座長および新旧メンバー（本会会員）との交流会を実施、出席者は 100 名を超えた。

2013 年度創発の会メンバー総数は 193 名であり、2014 年 3 月には創発の会の設立趣旨の通り、活動期間が満 2 年を経過したメンバー 52 名の修了式を行った。

（ 6 ）リーダーシップ・プログラム

リーダーシップ・プログラム（長谷川閑史委員長）は、幅広い視野を有し社会のリーダーとしても活躍し得る次世代の経営者育成を目的としており、会員所属企業の本会未入会の若手役員（主に取締役、執行役員）を対象に実施している共益事業活動である。2003 年度から開始し今年度で第 10 期目を迎えるが、昨年度までに合計 210 名が本プログラムを卒業し、55 名が本会へ入会している。

今年度は 23 名のメンバーが、2013 年 7 月～2014 年 3 月の間に 12 回の会合と 2 回の合宿を行い、優れた経営を実践している経営者や様々な分野で活躍されている方の話を伺いながら、「リーダーのあり方」「企業経営論」「人材育成」などについて自由闊達な議論を重ねた。幅広い業種から集まったメンバー同士の交流は、プログラム卒業後のネットワーク形成にも役立っている。

各会合にご来臨頂いた講師の方々（敬称略、開催順、役職は開催当時）

- ・岡崎哲二 東京大学大学院 経済学研究科教授
- ・藤森義明 LIXIL グループ 取締役代表執行役社長兼 CEO、
経済同友会 副代表幹事
- ・牛尾治朗 ウシオ電機 取締役会長、経済同友会 終身幹事
- ・小林喜光 三菱ケミカルホールディングス取締役社長、
経済同友会 副代表幹事

- ・小林いずみ ANA ホールディングス 取締役
- ・木川 眞 ヤマトホールディングス 取締役社長
- ・数土文夫 JFE ホールディングス 相談役
- ・唐池恒二 九州旅客鉄道 取締役社長
- ・中西宏明 日立製作所 代表執行役 執行役社長兼取締役
- ・宮内義彦 オリックス 取締役兼代表執行役会長、経済同友会 終身幹事
- ・大橋光夫 昭和電工 相談役

2回の合宿では「私の目指すリーダー像」「社長就任演説」と題し個人スピーチを行った。また、各自が実際の経営課題を持ち寄り、グループ討議を実施した。

- ・軽井沢合宿（2013年9月上旬実施）軽井沢プリンスホテルウエスト
 - 講師：長谷川閑史 武田薬品工業 取締役社長、経済同友会 代表幹事
 - 講師：北城恪太郎 日本アイ・ビー・エム 相談役、経済同友会 終身幹事
- ・仙台合宿（2014年3月中旬実施）ウェスティンホテル仙台
 - 講師：富山 和彦 経営共創基盤 代表取締役 CEO、経済同友会 副代表幹事
 - 講師：大山健太郎 アイリスオーヤマ 取締役社長
 - 講師：前原 金一 経済同友会 副代表幹事・専務理事

（7）ジュニア・リーダーシップ・プログラム

ジュニア・リーダーシップ・プログラム（北城恪太郎委員長）は、2012年度より企業の意思決定ボードのダイバーシティ実現に向けて、性別・年齢・国籍を超えた次期上級幹部を育成することを目的に、会員所属企業から部長職等上級幹部職者を対象に活動している。

2012年11月に参加者23名（女性14名、男性9名）でスタートした第1期の活動は、より充実したプログラムを提供するため2013年10月まで活動期間を延長し、全12回の会合を実施した。

プログラムは、革新的な経営を実践している経営者や有識者の方々からの講演を伺い、経営革新、ダイバーシティ、企業の社会的責任などについて幅広く意見交換を重ねた。最終会合は10月4日に開催、峰岸真澄 リクルートホールディングス取締役社長・本会幹事より基調講演「変革のセンターに立つということ」の後、発表課題として「自社の事業部門リーダーへの就任演説」をテーマに一人3分の個人スピーチを実施した。最後に、全12回のプログラムを振り返り「今後の自分のキャリアにどのように生かすか」をテーマに4グループで討議し、北城委員長、橘・フクシマ・咲江 副代表幹事、前原金一 副代表幹事・専務理事、峰岸幹事がアドバイザーとなり講評を行った。なお、本プログラムを通じて異業種から集まった参加者同士の交流を深める

場にもつながった。

第2期は、2013年10月からスタートし、新たな参加者24名（女性16名、男性8名）が参加、2014年7月までの約10か月間のプログラムを実施している。活動は第1期のテーマを引き継ぎ、主に革新的かつグローバルな経営を実践している経営者の方々の講演を伺うとともに、より多くの時間を意見交換にあてて議論を深めている。プログラム中間時点となる3月13日には、中間討議の会合を開催した。集中討議に先立ち、志賀俊之 日産自動車副会長・本会幹事より基調講演「グローバル競争に打ち勝つ 組織・人づくり」を伺った。その後「ダイバーシティのあり方と今後の自分のアクションプラン」をテーマに4グループでの討議ならびに成果発表を行い、北城委員長、フクシマ副代表幹事、前原副代表幹事・専務理事、志賀幹事がアドバイザーとなり講評を行った。7月10日の最終会合では、スピーチのほか、リーダーシップに対するグループ討議を予定している。